

院内情報誌

【ICT ニュース】

発行者：感染対策チーム

＜発行履歴＞

第 21 号	6 月 14 日
第 22 号	7 月 26 日



ICT ニュース

第 22 号



清拭タオルの管理は大丈夫？

院内で使用する清拭タオル、なにげに使用していますが「それって本当にきれい？」と思ったことはありませんか？「このタオル、ちょっと臭う」なんていう経験のある方もいるのではないでしょうか。もし、「なんかへんな臭いがする」と感じたタオルがあれば、それは細菌に汚染されているかもしれません。

【清拭タオルが汚染されるルートは？】

- ① 使用後タオルが確実に洗濯されている（洗濯機の不具合）
- ② 加湿する清拭車自体が汚染されている
- ③ 清拭タオルを準備する人の手が汚染されている

【安全なタオルを提供するためには？】

- ① 熱水洗濯機（80 度・10 分以上で洗濯）の使用
- ② 清拭車は清掃後、翌日使用時まで乾燥させる
- ③ タオルを濡らして拭く作業をセルフキープなどで清掃し、手指衛生を実施後、手袋を脱着する。
- ④ 濡れたタオルを長時間保管せず、使用前（2 時間前）に準備・加湿する
- ⑤ 加湿する場合は、清拭車やホットキャビの蓋をしっかりと閉める
- ⑥ ホットキャビで温めている黄色（黄）タオルは、食事ごとに準備し、タオルの経度足しはしない



Bacillus cereus 菌（グラム陽性桿菌）

土壌、空中などの自然界に広く分布する。シーツや清拭タオルが汚染源と考えられる医療関連感染の原因菌として有名。芽胞菌のため、熱や消毒薬に耐性を示す特徴がある。

清拭タオルは、高温で温められるのに細菌は死なないの？

清拭タオルは、確かに高温で温められ、細菌が十分死滅する温度まで温められます。しかし、清拭タオルを糸山詰め、蓋が完全にしまっている状態やホットキャビのように、何層も閉められていると温度が下がり、細菌が検出されたというケースがあります。また、*Bacillus cereus* 菌のような熱に強い細菌もいます。

安全なタオルを提供できるように、清潔な作業台と手で準備することを忘れずに！！また、タオルの経度足しは止めましょう。

2017. 7. 26

感染対策チーム



【地域医療連携室だより】

発行者：地域医療連携室

＜発行履歴＞

Vol.94	4 月 1 日
Vol.95	5 月 1 日
Vol.96	6 月 1 日
Vol.97	7 月 1 日
Vol.98	8 月 1 日
Vol.99	9 月 1 日
Vol.100	10 月 1 日
Vol.101	11 月 1 日
Vol.102	12 月 1 日
Vol.103	1 月 1 日
Vol.104	2 月 1 日
Vol.105	3 月 1 日



地域医療連携室だより

Vol.105

患者さんと医療機器との架け橋役

臨床工学部の紹介

臨床工学技士は、1987 年新しく出来た国家資格で、生命維持管理装置をはじめとする医療機器の操作及び保守管理をおこなうことを業としています。歴史は浅いですが、近年、医学の進歩とともに医療機器も大きく進歩している中、医療機器の安全をつかさどる臨床工学技士のニーズは非常に高くなってきています。

臨床工学部では、高度化する医療・機器に対応すべく、臨床工学技士 16 名で、業務を「循環器部門」「呼吸器部門」「血液透析部門」「医療機器管理部門」「手術室部門」の 5 部門に分け、機能的かつ専門的に活動できるよう組織しています。また、2015 年から当直を開始し、24 時間 365 日、迅速に対応出来る体制を整えています。

地域連携

臨床工学部では、人工呼吸器や CPAP 装置などの医療機器を通じて地域医療とも密接に関わっています。特に、SAS（重症時無呼吸症候群）は、最近注目されているタリリクランドロームや高血圧、糖尿病、心臓疾患、脳卒中とも深い関係があるといわれています。CPAP 療法などで比較的容易に症状を改善する事ができます。我々は、ご紹介頂いた SAS 患者様の CPAP 療法導入や定期的な CPAP 外来を実施し、地域医療に携わる皆様としっかりと連携を心がけてお手伝いをさせて頂きます。

今後とも、医療機器のスペシャリスト部門として、患者様に安全で適切な医療が提供できるよう研鑽を積み、皆様とともに地域医療に貢献していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



血液透析部門
・透析 透析器管理
・血液透析、透析液
・特殊血液透析装置
・水質管理、機器の保守

医療機器管理部門
・院内医療機器点検、修理業務
・医療機器の中央管理化
・機器導入配置コントロール

手術室部門
・室間小手術
・（経鼻）（経口）
・（経鼻）（経口）
・内視鏡など手術支援装置

循環器部門
・心臓カテーテル治療
・心臓アブレーション治療
・人工心臓治療
・ペースメーカー、ICD 治療

呼吸器部門
・SAS 治療
・人工呼吸器治療（SST 業務）
・在宅人工呼吸器治療

【安全速報】

発行者：医療の質・安全管理室

＜発行履歴＞

第 118 号	4 月 10 日
第 119 号	4 月 10 日
第 120 号	4 月 10 日
第 121 号	4 月 7 日
第 122 号	4 月 27 日
第 123 号	6 月 30 日
第 124 号	10 月 4 日

【助産師通信】

発行者：5B 病棟助産師

＜発行履歴＞

Vol. 34	7 月 2 日
Vol. 35	10 月 13 日

助産師通信
Vol. 35 2017.10

産前・産後のメンタルヘルス

●**どうしてメンタルヘルス(心の健康)は大切なのか？**

“病は気から”といいますが、心の不調は身体に大きな影響を与えます。出産前後はさまざまなことが影響し、感情の浮き沈みが起こりやすくなります。これをマタニティブルーといい、10人に1人がなると言われています。マタニティブルーが悪化すると、産後うつ病になる可能性があります。自分の心の変化にゆっくりと耳を傾けてあげることが大切です。“自分は大丈夫”と過信しないで、予防と早期発見をしていきましょう。

●**何が産前・産後のメンタルヘルスに影響を与えるのか？**

動き方や生活の変化
想像していた妊娠生活や育児生活とのギャップ
何かと行動が制限される

ホルモンの変化
ストレス
環境不足で心に余裕がない
周囲の人が、妊娠や育児に無関心または過干渉

出産や育児への不安
予想外の妊娠

●**心のSOSに気づいてください！**

- 心配や不安な気持ちが押し寄せる。
- 喜びや楽しみを感じない。
- 少しのことで腹が立つ。攻撃的になる。
- 食欲がない。食べ過ぎてしまう。
- 無気力で何にも関心が持てない。
- 眠れない。

●**心の健康を保つには・・・**

- 気分をリフレッシュし、心のゆとりが大切です。
- 完璧にしようと思わず、少し手を抜いてみる。
- ひとりの時間を作る。
- 信頼できる人に相談する。
- 心療内科を受診してみる。

→ 母子健康手帳について、「保護者の記録」を参考にしてみましょう。

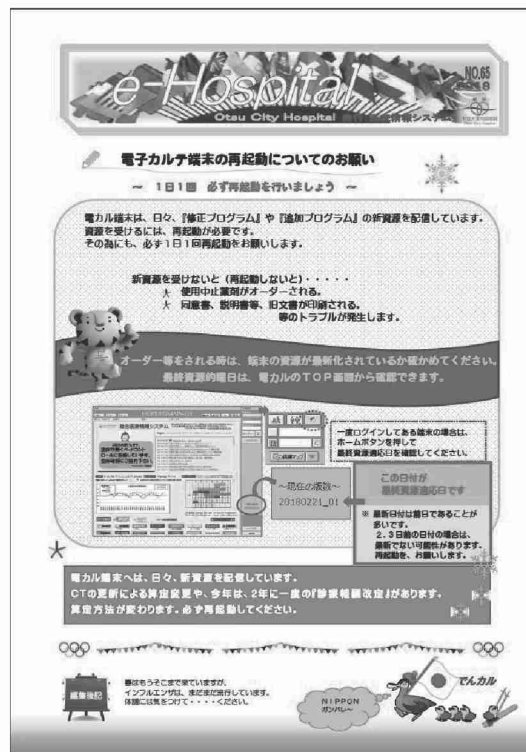
助産師外来やスマイルママで一緒にリフレッシュしませんか？

【e-Hospital】

発行者：医療情報システム室

＜発行履歴＞

No.55	4月26日
No.56	5月30日
No.57	6月27日
No.58	7月25日
No.59	8月28日
No.60	10月4日
No.61	10月31日
No.62	12月1日
No.63	12月27日
No.64	1月30日
No.65	2月28日
No.66	3月30日

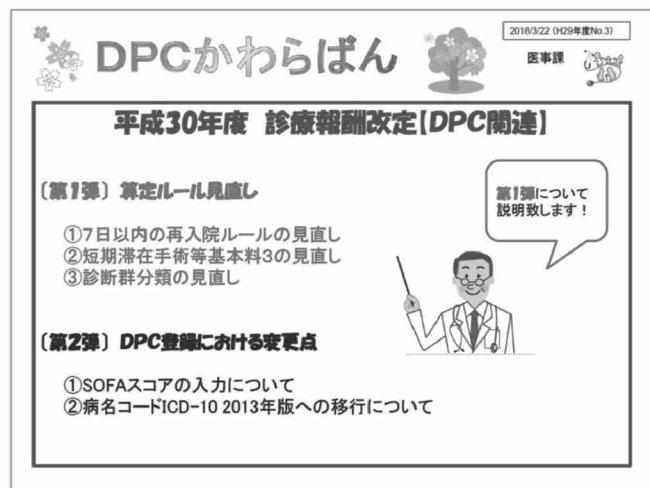


【DPC かわら版】

発行者：医事課

＜発行履歴＞

29年5月号	5月1日
29年8月号	8月15日
30年3月号	4月2日



【相談・支援ニュース】

発行者：地域医療連携室

＜発行履歴＞

第31号	6月23日
第32号	8月29日
第33号	10月31日
第35号	3月2日



【検査かわら版】

発行者：臨床検査部広報担当

＜発行履歴＞

第 38 号	5 月 25 日
第 39 号	6 月 14 日
第 40 号	6 月 27 日
第 41 号	9 月 13 日
第 42 号	11 月 20 日
第 43 号	12 月 1 日
第 44 号	3 月 3 日

今回の内容

- 細菌検査の容器について
- アンチバイオグラム
- 採血管への分注順序について
- 検査内容変更・中止についてのお知らせ
- 検体保存の破棄リスト

細菌検査容器

胸水、腹水、その他穿刺液などの材料を培養に出す時は、滅菌容器を使用してください。

なお、嫌気性菌が疑われる場合には、シードチューブ（嫌気性輸送用容器）を使用してください。

胸水、腹水、その他穿刺液などの材料を培養に出す時は、原則として、血培ボトルは使用しないでください（血培ボトルは他の容器と比べてコストがかかります）。どうしても血培ボトルにて提出の必要がある場合は、微生物検査室（内線：8267）にご連絡ください。

【DM リンクナース】

発行者：DM リンクナース会

＜発行履歴＞

VOL.1	7 月 31 日
VOL.2	9 月 24 日
VOL.3	11 月 19 日

今後、針とリムーバーが変更になります！

※リムーバー使用の必要性※
臨床現場では、リキャップ中に針刺し事故が起こることが多く、その多くがインシュリンの注射時という統計がでています。
自分自身を守るためにも、リムーバーの使用するようにしてください！

＜新しいリムーバーの使用＞

第2回 DMリンクナースによるラウンドにご協力頂きありがとうございました。
結果は後日リンクナースから返却されると思いますので、確認してください。

【リスクマニュース】

発行者：リスクマネジメント部会

＜発行履歴＞

第 1 号	7 月 1 日
第 2 号	9 月 22 日
第 3 号	11 月 15 日
第 4 号	2 月 5 日

マニュアルグループの活動紹介

マニュアルグループでは・・・

“持参薬の取り扱い”を統一することにより、インシデント・アクシデント発生を減らすことを、目指しています。

今年度の活動内容

☆昨年度から引き継いだ「持参薬取り扱い一連の流れの基盤」を元に病棟統一の『持参薬マニュアル』を作成・運用。
運用開始後にアンケートを実施。
現場の意見をいただき、追加修正を行いました。
→3B病棟は一般病棟と同様の手順で行うことは難しく、3B病棟用の持参薬マニュアルを追加作成しました。

ご意見等ございましたら、所属のリスクマネジャーを通じてマニュアルグループまでお願いします。

【6A通信】

発行者：6A病棟

＜発行履歴＞

vol.6	7月10日
-------	-------



【ME ができる情報誌】

発行者：臨床工学部

＜発行履歴＞

Vol.6	6月7日
Vol.7	11月15日
Vol.8	12月12日
Vol.9	3月5日
Vol.10	3月6日

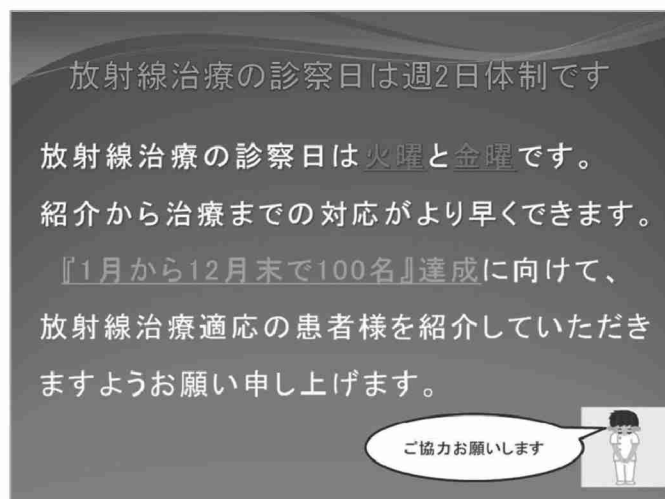


【放射線治療 Topics】

発行者：放射線部

＜発行履歴＞

Vol.10	4月14日
Vol.11	6月1日
Vol.12	6月6日
Vol.12	7月5日
Vol.13	7月31日
Vol.14	9月15日
Vol.15	10月3日
Vol.16	11月1日
Vol.17	11月2日
Vol.18	12月1日
Vol.19	3月7日



【NST ニュース】

発行者：栄養サポートチーム

＜発行履歴＞

No.1	5 月 19 日
No.2	6 月 21 日

NSTニュース		今年度のNST勉強会		No.2 2017.6
回	日	曜日	内容	講師
1	6月26日	月	SGA (主観的包括的評価)	内科 峠岡 佑典 医師
2	7月24日	月	ODA (客観的栄養評価)	精神・心療内科 前林 佳朗 医師
3	8月28日	月	救急領域の栄養管理	集中治療部 横峯 辰生 医師
4	9月26日	火	外科疾患と栄養管理	外科 藤田 勲留久 医師
5	10月23日	月	摂食・嚥下障害と栄養管理 嚥下評価 嚥下訓練食	西 真由美 (摂食・嚥下障害看護認定看護師) 中井 和美 (管理栄養士)
6	11月30日	木	腎臓疾患と栄養管理	内科 中澤 純 医師
7	12月11日	月	消化器疾患と栄養管理	消化器内科 木村 英憲 医師 消化器内科 杉本 博子 医師
8	1月22日	月	糖尿病と栄養管理	内科 峠岡 佑典 医師
9	2月26日	月	呼吸器疾患と栄養管理	呼吸器内科 平沼 修 医師
10	3月12日	月	口腔ケア 腸胃腸管 経腸・経静脈栄養	山本 伸子 (歯科衛生士) 鄭 智佳 (薬剤師)

【RRS ニュースレター】

発行者：RRS

＜発行履歴＞

Vol.5	6 月 13 日
Vol.6	8 月 15 日
Vol.7	11 月 7 日
Vol.8	2 月 3 日

RRS(Rapid Response System)

Vol.8
2018年2月号

ニュースレター

全病棟の救急カードが統一化されました！

今まで各病棟ごとに入っているものがばらばらでしたが、このたび救急カードの中身が全病棟統一化されました。基本のもの以外に、病棟の特殊性のあるものも入れることが出来ます。チェックリストも全病棟統一されています。(並び替えは各病棟で可能なため、順序は若干異なります)

RRS導入研修、今年度受講出来なかった方は個人的に行いますのでICU西田さんまでお知らせください。

qSOFAを覚えよう！

RRSコール基準
 体温：35.0℃↓、39.0℃↑
 脈拍：40回/分↓、130回/分↑
 呼吸数：8回/分↓、30回/分↑
 SpO2：90%↓
 尿量：50ml/4H以下
 血圧：sBP90mmHg↓、200mmHg↑
 意識レベル：落ち着きなし、せん妄、傾眠、痙攣
 ＊スタッフによる患者に関する何らかの懸念

qSOFA (quick Sequential Organ Failure Assessment)をご存じでしょうか？2016年に敗血症の定義が変更され、その診断にはSOFAスコアを用いますが、ICU以外では即座に使用しにくい。一般病棟やERなどではこのqSOFAを用います。これは何らかの感染症が疑われた上で、3項目のうち2項目以上満たした場合に敗血症の可能性が高いとされます。RRSのコール基準も被っている部分がありますので、ぜひ覚えておきましょう。そして、基準を満たす患者さんを見つけたときにはRRSコールをしましょう。

qSOFA
 意識状態の変化
 sBP100mmHg以下
 呼吸数22回/分以上

【RST ニュースレター】

発行者：呼吸サポートチーム

＜発行履歴＞

Vol.3	6 月 28 日
Vol.4	9 月 12 日

RST ニュース
vol.4 2017.9

ウエットパック導入のお知らせ

今後、24時間用には閉鎖式吸引にパックされてきます。
 72時間用に関しては購入位置で請求できます(24本/箱 6箱/ケース)
 既製品はサブバッグ、洗浄液用は吸引中に空気にさられます

閉鎖式吸引時、今まで注射用水を注射器で吸って洗浄していましたが、不潔になりやすいためより閉鎖式吸引に専用の洗浄水(ウエットパック 1本15ml)が導入されました。1回の吸引後、残った水は必ず1回ごとに破棄して下さいね

【認知症・せん妄ケアチーム便り】

発行者：認知症・せん妄ケアチーム

＜発行履歴＞

第1号	8月22日
-----	-------

認知症・せん妄ケアチーム便り

第1号 2017年8月22日発行 発行元：認知症・せん妄ケアチーム

平素より、チーム活動にご協力いただきありがとうございます。
認知症ラウンドを開始してから半年経ち、少しずつ活動の成果が現れてきています。
日々、皆さんが行っていることが、実績（下の表参照）につながっています。
総合入院体制加算3取得（年間7,000万円の増収見込み！）のためには、認知症ケア加算が必要となっています。
これからの認知症患者・そのご家族に寄り添い、支援していきたいと思えます。
半年間の認知症ケア加算算定状況をお知らせします。

2017年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計(円)
認知症ケア加算1（～14日以内・身体拘束あり）	9,900	43,200	35,100	9,900	18,000	22,500	138,600
認知症ケア加算1（14日以内）	79,500	75,000	88,500	78,000	68,000	97,500	486,500
認知症ケア加算1（15日以上・身体拘束あり）	1,800	15,300	22,800	75,300	6,600	12,000	134,800
認知症ケア加算1（15日以上）	27,300	35,100	48,800	39,800	30,800	19,200	199,900
	118,500	168,600	193,200	202,800	121,500	152,100	956,800

※入病後2週間経過した方、退院が決定している方の新規依頼は基本的に受け付けできません
※アルコールによるせん妄状態の方は対象外です（専門治療が必要）
※毎週火・金ラウンドのため、依頼は前日までにお願いたします

【Let's ケモセラピー】

発行者：化学療法委員会

＜発行履歴＞

Vol.1	8月14日
Vol.2	10月12日
Vol.3	10月16日
Vol.4	1月30日

Let's ケモセラピー

Vol.2 (2017年10月発行)

新規レジメン承認

【適応疾患】胃がん
【レジメン】mFOLFEX8療法
※腎障害などでCDDPのレジメンが適応できない時の選択肢のひとつです

原発不明癌のレジメンの取り扱い

※臨時のレジメン申請を行い、患者様毎の登録となります。
※組織分類が同じでも、他診療科のレジメンは使用しないでください。
※同意書は、共通の様式をご活用ください。（現在、作成中です。）

化学療法部の利用件数

“化学療法部”は、本館6階のA棟内で運営しています。
延べ利用件数（化学療法・免疫療法）は増加傾向にあります。

化学療法部 延べ利用件数

年度	延べ利用件数
2012年	1212
2013年	1583
2014年	1599
2015年	1646
2016年	1861

【外来化学療法加算】（1患者1利用につき）
▶ 600点 ▶
→ 化学療法・免疫療法（オプジーボなど）
▶ 480点 ▶
→ アクテムラ・レキケード・インフリキシマブ
（当院では未採用ですが、オンラインも）

発行：化学療法委員会

【季刊誌 危機管理情報「虹」】

発行者：血液浄化部

＜発行履歴＞

第71号	11月1日
------	-------

季刊誌 危機管理情報誌「虹」

発行：宇山大学付属病院 血液浄化部 血液浄化科 2017年11月1日

10月、透析中に「腹痛」の地震が発生したという報道で、緊急時訓練を行いました

「地震」あれば怖いなし
では、具体的には何をしたらいいのかわかりますか？

★★普段から★★★
①災害時、緊急透析が実行できるよう止血ペッドを枕元に伸ばした状態で準備して下さい。
②当院で透析が行えなくなる可能性もありますので、透析条件カード・身体搬送手帳をいつも携帯してください。（ご自身の現在の体重を、すぐに言うことができますか？）

★★透析中に地震が起きたら★★★
①針が抜けないように、シャントのある方の手でしっかりと固定を確保して下さい。
②物が落ちてくる可能性もあるので、できる方は布団を頭でかぶって下さい。
③もう片方の手でベッドの脚の間に足を挟んで下さい。
パニックに陥らず、落ち着いて医療スタッフの指示に従い、冷静に対応してください。

シャントエコーでシャント管理

シャントエコー目的
「シャント評価をせよ。障害する前の適切な時期に治療をせよ」
シャント血管は透析治療を続けていけば狭窄は避けられませんが、定期的なシャントエコーを実施して狭窄を早期発見し、早期治療することが大切です。

シャントエコーは、シャント血管の狭窄や閉塞はもちろんのこと、血流量（Flow）・血管抵抗（RI）や血流パターンを解析することで、シャントトラブルの早期発見に非常に有効な方法です。
血流量（Flow） 正常範囲：350～1000 ml/min
血管抵抗（RI） 正常範囲：0.7以下
※絶対的な基準ではありません。最終的には臨床所見も加味して判断しています。

シャント血管の狭窄を早期発見して適切な治療を行うことが大切です。

12月5日

市立大津市民病院 ほけんだより VOL.1

平成28年12月号発行

発行元：法事科看護部
保健課 庶中 内藤(135)

暑さが厳しくなり、冬の寒さを感じる季節となりました。季節の変わり目は心身共に体調を崩しやすい時期でもあります。日頃から適切な栄養・運動・睡眠を心がけていきましょう。今年度は10月にストレスチェックを実施しました。ストレスチェックの結果はわががたでしかたがご自身の結果を確認していただき、ストレスとその対処方法について一緒に考えていきましょう。

ストレスってなに？

そもそもストレスとは、外部から刺激を受けたときに生じる緊張状態のことです。ストレスと聞くと、嫌なことや辛いことを連想する方が多いかもしれませんが、しかし、楽しいことや嬉しいこともストレスの原因になります。日常の中で起る様々な変化＝刺激が、ストレスの原因になるのです。

環境的要因	・・・天候や騒音など外部からの刺激
身体的要因	・・・病気や睡眠不足
心理的要因	・・・不安や悩み
社会的要因	・・・人間関係がうまくいかず、仕事が忙しい

ストレスによる心身の反響

心身体	身体面	行動面
不安や抑うつ(気持ち落ち込み)、頭が暗い、喉の乾下、イライラ、食欲の低下、集中力の低下など	入眠障害(寝付くのが悪い)や中途覚醒(夜中に寝が覚めるなどの不眠、易覚醒、頭痛や肩こり、腰痛、喉の乾きの、めまいや動悸、頭痛、食欲不振、疲労やめまいなどの症状	飲酒量や喫煙量の増加、食欲亢進(力加へ、ひきこもり)、食欲や運動の増加、仕事のミスやミスやリハビリの増加など

※これらのストレス反応が長(2週間以上)続けば、過剰なストレス状態に陥っているサインかもしれません。

ストレスサインに気づいたら、早めのセルフケアが大切

ストレスを受けると、体調をくずすだけでなく、気持ちが悪くなることも往々にしてあります。こころの健康を脅かすだけでなく、身体にも同じように早期の対応が大切です。たとえば、気持ちが悪くなる、イライラする、眠れない、食欲がない、疲れやすいといったときは、早めのセルフケアが必要です。また、その人特有のストレスサインもあるでしょう。たとえば、疲れやすいというサインが痛くなる、腰に出てくる、耳鳴りするなど、自分特有のストレスサインを知っておくことも大切です。

ストレス対処の「3つのR」

リラクゼーション(Relaxation)
運動や旅行、ゲームや読書のような趣味・娯楽や気晴らしの活動を楽しむを最優先する趣味や特技などは大事です！1週間以上の時間を取り入れ、好きなことに打ち込むことで日々のストレスを有意義に過ごせるように心がけましょう。

レスト(Rest) 休息、食事、睡眠。
心と体を切り替え、休息をしっかりと取ることが重要です。また、仕事でも疲労を溜めず、コーヒーを飲むなど、疲労が蓄積する前に意識して短い休憩を取ることも効果があります。

リリックス(Relax)
ストレッチ、瞑想や音楽、アロマセラピーなどのリラクゼーション。
呼吸を落ち着かせたり、筋肉の緊張を解くなどのリラックス効果のあるリラクゼーション方法を試してみましょう。家族や親しい友人との団らんなど、緊張を解きやすい時間を取ることも大切です。

病院広報誌『つなぐ』

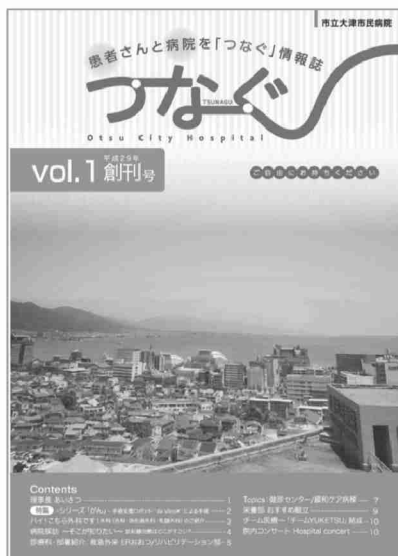
当院では、平成 29 年 12 月より、病院広報誌『つなぐ』を発刊しております。

このタイトルには、「患者さんと病院を“つなぐ”」、「職員と職員を“つなぐ”」という意味が込めてあります。

『つなぐ』では、当院の各部署の紹介や、病気とその予防法、治療や手術に関する情報、近隣の協力医療機関のご紹介などをお届けしています。

＜発行履歴＞

創刊号	平成 29 年 12 月 14 日
第 2 号	平成 30 年 3 月 22 日

[illegible]

創刊号(平成29年12月14日発行)

